

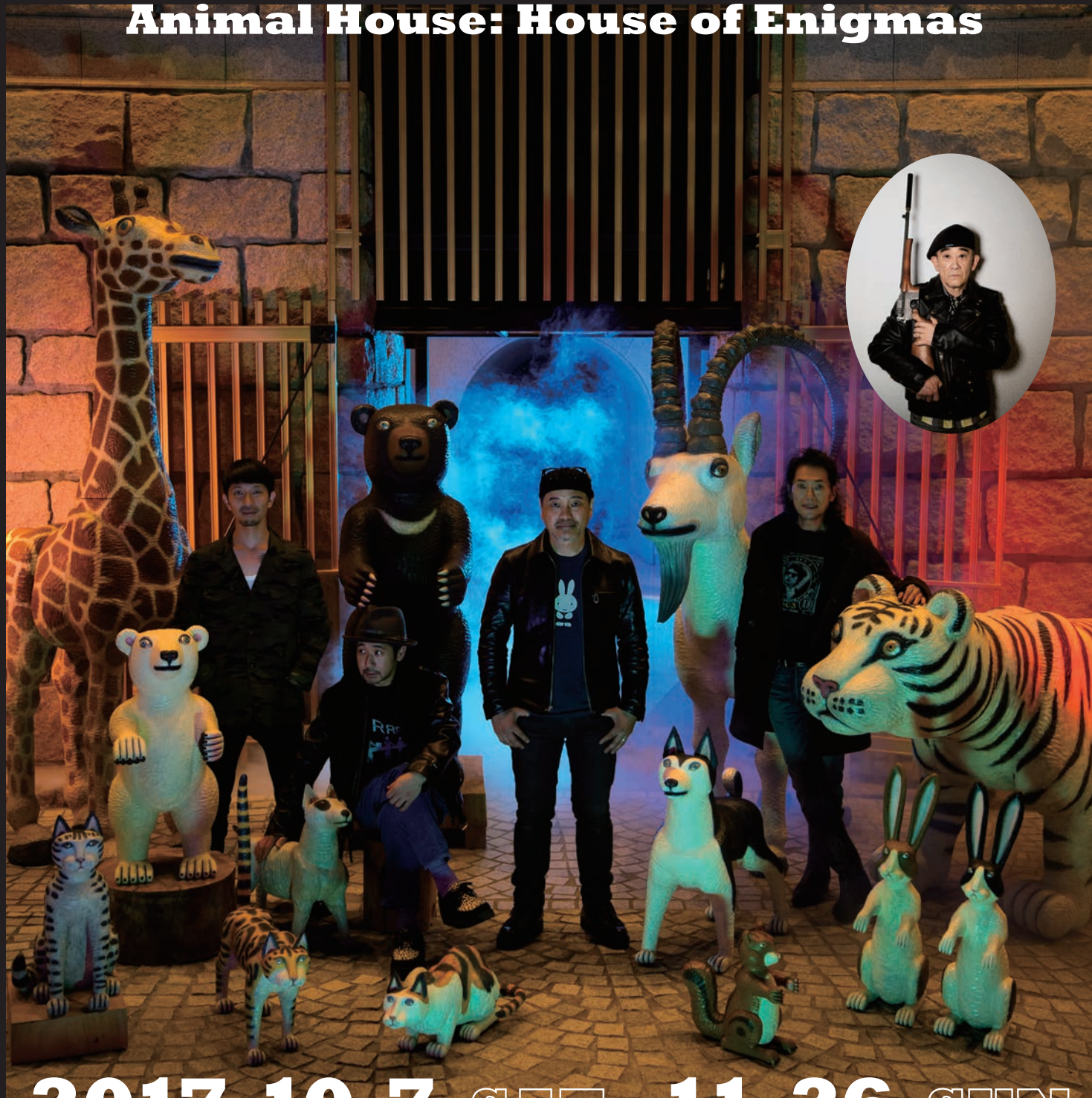
Katsura Funakoshi
Hiroshi Sugito

三沢厚彦

Masato Kobayashi
Masashi Asada

アニマルハウス：謎の館

Atsuhiko Misawa's Animal House: House of Enigmas



三沢厚彦・舟越桂・小林正人・杉戸崇・逢田政志 with Animals / 2017 Photographs by Masashi Asada

2017.10.7.SAT - 11.26.SUN



渋谷区立松濤美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART

開館時間 | 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで) ※毎週金曜は午後8時閉館(入館は午後7時30分まで)

休館日 | 10月10日(火)、16日(月)、23日(月)、30日(月) / 11月6日(月)、13日(月)、20日(月) 入館料 | 一般500円(400円)、大学生400円(320円)、高校生・60歳以上250円(200円)、小中学生100円(80円)

※()内は団体10名以上および渋谷区民の入館料 ※土・日・祝日は小中学生無料 ※毎週金曜日は渋谷区民無料 ※障がい者とその付添の方1名は無料

主催 | 渋谷区立松濤美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会 協賛 | ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網 協力 | 西村画廊、シュウゴアーツ、小山登美夫ギャラリー

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 2-14-14 TEL 03-3465-9421 <http://www.shoto-museum.jp>

三沢厚彦アニマルハウス：謎の館

Atsuhiko Misawa's Animal House: House of Enigmas

ぼくは動物を等身の大きさにつくってます。素材は樟(くすのき)。鑿(のみ)と彫刻刀を使って彫り込み、着色する。そんな風に「Animals」はできます。

この度、渋谷区立松濤美術館で展覧会を開催することになった。独自性に富んだ空間を内包した豪華な私邸のようなその建物は、通常の展示ロジックでは攻略できない濃度があり、妙にわくわくした。これは面白いことができそうだ！訪れた時に、まずタイトルだけ思いついた。アニマルハウス。大好きなアメリカのコメディ映画、アニマルハウスと呼ばれる学生寮に住む、怪人、変人(アニマルみたいな奴等)が繰り広げる物語からとったものだ。

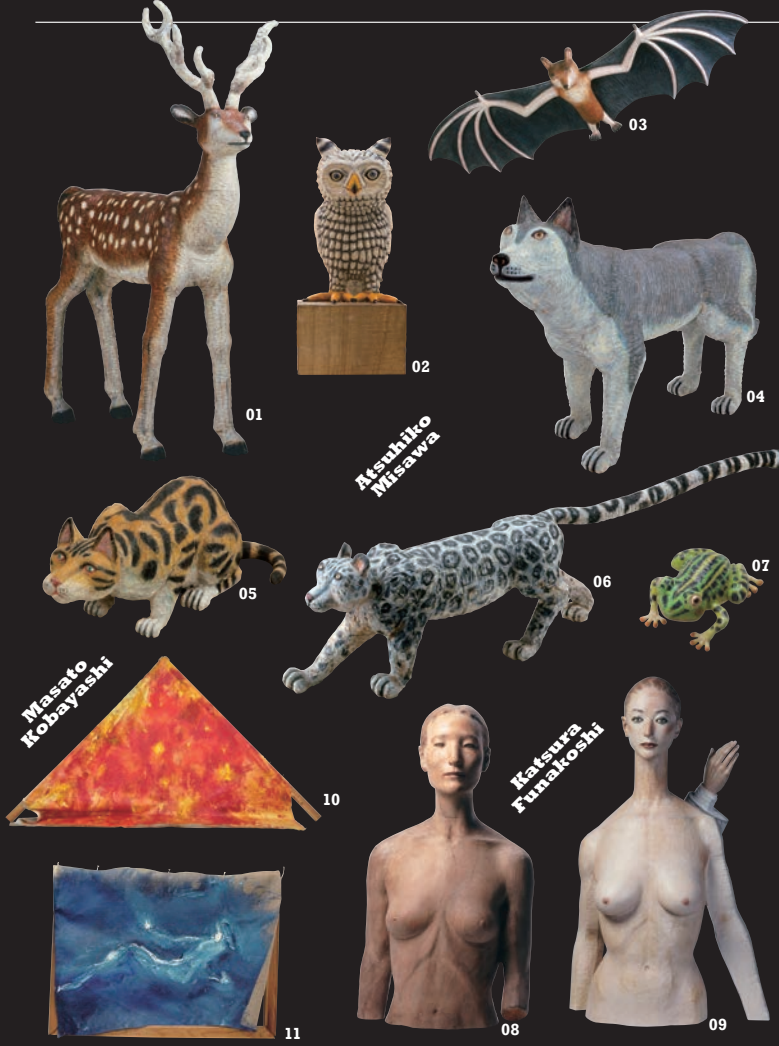
すると、おのずと方向性が見えてきた。ぼくが住人兼主人になって、お客さんを迎えるのはどうか？それで以前から、なにか一緒にやりたいね、って話していた、画家の小林正人さんに声をかけたら、面白そうだね、やろうよ、と。そして小林さんが杉戸はいいぞ、って画家の杉戸洋さんを連れて来てくれた。ぼくは先輩彫刻家の舟越桂さんにお声がけし、へへ、面白そうじゃない、三沢がきめたことだし、いいと思う

よ、というありがたいお言葉をいただいた。どんな展覧会になるんだろう？想像がつかない。白井晟一的设计した館のなかで行われる謎の展覧会。そうか、謎の館。会期中も通して動いていく、展覧会。

そんな展覧会のポスターは、美術館の前でみんなで記念撮影するのが、謎の館らしくいいと思った。誰に撮ってもらおうか？あ、いい写真家がいる、浅田政志さん。そして浅田さんも客人に加わった。

彫刻家と画家と写真家、5人が集まった。僕自身の思いでもあるが、「彫刻と絵画、その間とその先は」というべきものが、館の中で示唆されるべき出来ごととして起こればいいな、と願うのである。両者が個々として存在し、そして溶け合い、次なる瞬間、今までとは全く違う見えかたをする。「アニマルハウス」はそんな体験の出来る場になればいいと思う。なんといっても「謎の館」なのであるから。しかし、本当のところどうなるのであろうか…。

三沢厚彦



三沢厚彦 Atsuhiko Misawa 01 | Animal 2004-04 / 撮影:内田芳孝
Yoshitaka Uchida 02 | Bird 2013-01 / 撮影:加藤健 Ken Kato
03 | Animal 2006-08 / 撮影:内田芳孝 西村画廊蔵
04 | Animal 2010-05 / 撮影:大島拓也 Takuya Oshima
05 | Cat 2010-05 / 撮影:永野雅子 Masako Nagano
06 | Animal 2005-01 / 撮影:内田芳孝 07 | Animal 2013-04
/ 撮影:岡野圭 Kei Okano / 樟、油彩 camphor wood and oil
舟越桂 Katsura Funakoshi 08 | 妻の肖像 / 1979-80 / 撮影:落合高仁
Takahito Ochiai / 樟に彩色 painted camphor wood
09 | 言葉をつかむ手 / 2004 / 撮影:岩根悠樹 Yuki Iwane / 樟に彩色、大理石
painted camphor wood and marble
小林正人 Masato Kobayashi 10 | Unnamed #56 / 2016
11 | Artist's Life 2002 #2 / 2002 / 油彩、カンヴァス、木枠
oil, canvas, wooden frame
杉戸洋 Hiroshi Sugito 12 | untitled / 2014 / 油彩、カンヴァス
oil on canvas 13 | 舟型のスタディー-1 / 40 / 2017 / 粘土 clay

各種イベント情報

A | 作家集合トーク

2階展示室

- 10月7日(土) 作家集合トーク 「アニマルハウス(1)」
- 10月28日(土) 作家集合トーク 「アニマルハウス(2)」
- 11月25日(土) 作家集合トーク 「アニマルハウス(3)」

時間:午後2時~3時 出演:三沢厚彦ほか、舟越桂・小林正人・杉戸洋・浅田政志
(回により構成メンバーは異なります。最終決定メンバーおよびイベント内容はHP等で告知します。)

B | 作家によるワークショップ 2種

地下2階ホール

①10月15日(日)浅田政志による写真撮影ワークショップ

※松濤美術館を舞台に、ひと味ちがう肖像写真を撮るコツを教わります(要デジタルカメラ持参)。

②11月3日(金・祝日)および4日(土) 三沢厚彦による木彫ワークショップ

※香り高い樟の板材を彫り込んでレリーフ作品をつくります。

材料費:各1,000円、別途入館料 定員:各15名(応募多数の場合は抽選) ※高校生以上対象

時間:午前11時~午後5時 ※3日間とも(②の場合、2日間の参加が必要になります)

申込方法:往復はがきに、希望のワークショップ名・〒・住所・氏名・年齢・日中連絡のつく電話番号を明記の上、松濤美術館(〒150-0046 渋谷区松濤2-14-14)「ワークショップ」係まで。

1枚のはがきて、1名の申込が可能です。①は10月10日(火)必着、②は10月24日(火)必着。

C | 三沢厚彦×舟越桂 公開制作 粘土で首像をつくる

2階展示室

※2人の作家がそのとき展示室にいる方をモデルに、粘土で首像の公開制作をおこないます。

10月21日(土)および11月18日(土) 午後3時~4時

D | 三沢厚彦×小林正人×杉戸洋×舟越桂 公開制作

2階展示室

および HORA AUDIOスピーカー-MONOで音楽をきく

(www.hora-audio.jp)

会期中の土・日曜日 午後3時~4時頃

※4人の作家もしくはそのいずれかが展示室で公開制作をおこない、即興で音楽を流したりトークをしたりします。(回により構成メンバーは異なります。最終決定メンバーはHP等で告知します。)

E | 浅田政志 公開撮影

全館

※Animalsや公開制作中の作家たちを撮影する様子をご覧になれます。

10月7日(土) 午後3時~4時頃

F | 学芸員によるギャラリートーク

1階ロビーに集合

日時:10月20日(金)、11月11日(土)、19日(日) 各回午後2時~

G | 金曜夕べの館内建築ツアー

1階ロビーに集合

日時:10月13日(金)、20日(金)、27日(金)、11月3日(金・祝)、10日(金)、17日(金)、24日(金)
各回午後6時~(30分程度)

すべて、※要入館料 ※B以外は事前予約の必要はありません。



【交通案内】
京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分
JR・東京メトロ・東急電鉄
渋谷駅下車徒歩15分

渋谷区立 松濤美術館
THE SHOTO MUSEUM OF ART

〒150-0046
東京都渋谷区松濤 2-14-14
TEL 03-3465-9421
http://www.shoto-museum.jp

次回の展覧会の ご案内 | 北澤美術館所蔵 ルネ・ラリックの香水瓶 アール・デコ香りと装いの美—
2017年12月12日(火)~2018年1月28日(日)